

## 私たちの神と人に対する説明責任

### 箴言 27:17

「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」

### ローマ 14:12

「こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。」

皆さんおはようございます。緊急事態宣言が解除されたばかりで、今月初めてこうして皆さんとまた教会でお会いできるのを嬉しく思います。実際に皆さんと顔を合わせて交わりにあずかれることはとても嬉しいですね。今日の説教では、最初は私のお気に入りの本のうちの 1 つから学んだことをお分かちしようと思っていました。けれども、そこへ週末に悲しい知らせが舞い込んだことによって今日のこの集会の空気を変えてしまうこととなりました。そこで最初考えていた内容では、今日のような日にはふさわしくないと気付きました。ですから、その代わりに今日は、約 2 か月前に私の頭の中で芽生えたことをお話しようと思います。この 2 か月間、少し重いトピックの説教だどどのようなものができるのか頭の中を巡らせてきました。重いけれども、クリスチャン教会で必要とされる説教です。今日の説教は私たちが受け取った知らせについての説教ではありませんが、説教の準備を進めて行くうちに、皆さんもきっとある程度それと関連付けて考えられるのではないかと思います。今日の説教は「説明責任(Accountability)」についてお話します。この言葉は私が大学生の時にクリスチャングループに所属していた頃からさかのぼって頻繁にクリスチャンの集まりの中で使用されているのを聞く言葉です。私たちそれぞれが、少なくとも 1 人の兄弟姉妹に対して霊的状况を説明できるようにすることがとても大事です。私たちが霊的にどのような状態なのかを聞くことができるだけの近いクリスチャンに対してです。

私が中心聖句として選んだ最初の聖句、箴言 27:17 が今日の説教の一つのテーマとなっていることにお気づきになるかと思います。「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」

そして、私たち一般のクリスチャンにとってその説明責任が重要であるならば、指導者の立場にあるクリスチャンにとってはどれほど決定的に重要なことでしょうか？指導者の立場にあるその人が他の誰かに対して.....つまり長老に対して、監督に対して、またはその教派の理事などの上層部の人たちに対して、すぐに答えられる状態にいられることは、極めて重要なことなのです。

私たちは皆、誤りを免れることのない人間であり、誘惑や罪に陥りやすいものです。ですから私たちには、私たちのことを調べ、クリスチャンの道徳に従って歩んでいるかどうかを確認してくれる人が必要なのです。これは特に、教会会衆の見本になる指導者の立場にある人たちにとっては重要です。私がこの説明責任というテーマについて考え始めたのは 2 か月前です。私は、世界的に有名なクリスチャン指導者を取り巻く不穏な事実について述べられているインタビューをいくつか Youtube で見たのです。クリスチャン弁証家のラビ・ザカリヤスのことです。

私は彼のことはあまり知りませんが、数年前に彼の講義を 2 つ、3 つ見たことがあります。講義を聞いて感銘を受けたので、もっと彼の話を知りたいと思いました。彼は昨年逝去しており、最近になって彼の行っていた様々な深刻な不品行の数々が明らかにされてきました。

この人が何年にも渡って不品行を続けていたというのは大変衝撃的なことでした。どうしてそのような長期間彼は処罰を免れてきたのでしょうか。明らかに、彼は高く評価され、自分のミニストリーの中ではかなりの力を持っていました。ですから周囲の人たちは何かがおかしいという兆候がいくつもあったにも関わらず、彼に立ち向かうことを恐れていたのでしょうか。この何年にも渡っていくつもの兆候があったようです。

この話を聞いていた時、私の心に鮮明に2つの思いが起こりました。一つは、彼のミニストリーにおいて明らかに霊的状态を説明する責任が問われてきていなかったのだということ、そしてもう一つは、私自身が若い時に衝撃を受け私を大きな罪から遠ざけてくれたある聖書箇所でした。その聖句は民数記 32:23 の後半です。

「あなたの罪があなたを見つけ出すと思ひ知りなさい（日本語新改訳では、あなたがたの罪の罰があることを思ひ知りなさい。）」

「あなたの罪があなたを見つけ出すことを思ひ知りなさい」もしも多少罪を犯したとしても逃れられると思っても、いつかそれも明るみにでると知りなさい。兄弟姉妹がいつかそれを見つけ出すかもしれません。そうなればとても恥ずかしいではありませんか？もしも彼らが見つげ出さなかったとしても、明らかに神はあなたを遅かれ早かれ裁かれます。つまり、この人生で、もしくはその次で、です。今日の2つ目の中心聖句は、ローマ 14:12 です。

ローマ 14:12 「こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。」

まずはこれが今日の私のメッセージの冒頭部分です。次に、この説明責任というトピックについてこの2か月私が思いめぐらせていた具体的な考えをいくつかご紹介します。

今日の説教の題名は「神と人に対する私たちの説明責任」としました。そして今日の説教を、私自身が若い時に教えられたこと、つまり私たち一人ひとりが、少なくとも1人のクリスチャン兄弟姉妹に霊的な状態を説明する責任があることをお話することから始めました。

腰を据えてこの考えに沿った聖書箇所を調べるにあたり、最初に私の頭に浮かんだ聖句は、神の御前における説明責任に直結するものでした。ですから、ここから始めようと思います。

## パート1：私たちの神の御前での説明責任

私が、この御言葉によって生きてきたと言える聖句の一つを紹介しましょう。それは、旧約聖書にある伝道者の書の最後の2節です。伝道者の書は聖書の中でも私のお気に入りの書です。どれくらいのクリスチャンが「伝道者の書がお気に入り」と言うかわかりませんが、とにかく私はそうです。

伝道者の書の最後の2章は特に、そしてその中でも最後の2節は特に私にとって心触れるものです。

伝道者の書 12章の13節と14節を読んでみましょう。

伝道者の書 12:13-14 「12:13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。12:14 神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。」

伝道者の書の著者は、この書を人生におけるたくさんの考察で満たしています。その中には肯定的なものもありますし、否定的なものもあります。そして彼はついに結論に至ります。人生において2つの重要な要素は：神を恐れ.....そして神の命令を守ることである、と。

まず「神を恐れる」には、2つの主要な側面があります。主に、神に敬意と畏敬の念を持つという意味です。2つ目は、神の憤りと父としての訓戒を恐れることです。神を恐れるとは、私たちの人生における神のご臨在を常に感じていることであり、また私たちが行い、話し、考えることで神を崇敬し称えようとすることです。

2つ目の重要な要素は「神の命令に従う」ことです。最後に神は、良し悪しに関わらず私たちのしたすべての行動を裁かれるのですから、これは極めて重要です。この聖句は、「最後には神が私の行ったすべてのことを吟味されるのだから、畏敬の念を持ち従順な人生を歩まなければ」という思いに私を駆り立ててくれています。私は完全ではありません。それとは遠いものですが、この将来の視点を常に頭にもって生きています。

ローマ 14:10 「14:10 それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。」

ローマ 14:12 「14:12 こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。」

いつか、私たち一人ひとりが、クリスチャンであるかに関わらず神の御前で私たちの行動の申し開きをします。ヨハネの黙示録 20:12 はこの最後の裁きについて述べています。

ヨハネの黙示録 20:12 「20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。」

私たちは自分の行いに応じてさばかれます。ここで教えられているのは、良い行いによって救いが与えられるかどうかということではありません。もちろん違います。新約聖書を通して多くの箇所、救いはキリストによる信仰によると教えられていますから。ここで分かることは、私たちの行いのすべてについて私たちは説明責任を持つことになるということです。

裁きの日に特にクリスチャンに何が起こるのかということをもっと詳しくお話ししましょう。

コリント第一 3:12-15 では、クリスチャンとしての人生の土台の上に、役に立たない行いではなく役立つ行いをもって建てることを強く勧められています。

コリント第一 3:12-15 「3:12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、3:13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。3:14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。3:15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」

数年前にもこの聖書箇所を皆さんと見たことがあります。私たちが役立つ行いをもって土台の上に建てるならば、それは金や銀、宝石で建てることになります。しかし私たちが役に立たない行いによって建てるなら、それは木、草、わらなど、最後には簡単に燃えてなくなってしまうようなもので建てることになるのです。そのようなクリスチャンでも最後には救われますが、何も報酬を得ることはありません。私に言わせればそれはとても悲しい終わりがたです。私は、兄弟姉妹の皆さんに、私たちの主のために、神の御国のために役に立つことを行うことをお勧めしたいと思います。自分の霊的賜物を実際に用いて、キリストのからだ、教会の内に仕える場所を見つけましょう。今年またどこかの時点でこの話題についてもう少しお話ししたいと思います。

さて、「パート 1：神の御前における私たちの説明責任」についてお話できるのはここまででしょう。では、「パート 2：私たちの人前での説明責任」にうつりましょう。

## パート 2：私たちの人前での説明責任

”

この見出しで私が思い起こすのはベブル 10:24 です。

ヘブル 10:24 「10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。」

互いに勧め合って、励まし合って、愛と良い行いを促すように注意し合おうではありませんか…。クリスチャンとしての歩みと奉仕を前進していくためにも、互いに励ましとなり、鼓舞し、激励しあうのが大変重要なのです。

コロサイの手紙 3:16 の前半を見てみましょう。

コロサイ 3:16 「3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、」

私たちは、キリストのことばを私たちのうちに豊かに住ませた後、お互いに知恵を尽くして教え、戒め合うのです。重要なポイントがここにあります。私たちは互いに戒め、教え合うことができますが、それは賢く、御言葉にあるようにキリストの言葉に従って行なうべきものなのです。

私たち一人ひとりが、「先週は霊的な面でどんな一週間だった?」「聖書、ちゃんと読めてる?」「祈りの時間についてはどう?」「家族との生活はどう?」というような個人的な質問でも聞くことができるくらいの近い人一人、もしくはそれ以上のクリスチャンの友に対して、状況を説明する責任を持つことが重要です。私たちは互いに励まし合い、高め合う必要があるのです。今日の説教は箴言 27 章 17 節を引用して始めました。「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」仲間づきあいは重要です。私たちを鍛え成長させるような類のものは特にそうです。そうすることで鉄が鉄によってとがれるように、それぞれが他を「研ぐ」ことができる相互関係となるのです。

伝道者の書 4:9-10 「4:9 ふたりはひとりよりもまさっている。ふたりが労苦すれば、良い報いがあるからだ。 4:10 どちらかが倒れるとき、ひとりがその仲間を起こす。倒れても起こす者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。」

私たちの誰もが、たった一人でクリスチャン生活を歩むべきではありません。私たちすべてが励ましを、そして霊的状态を説明する責任をも必要としているのです。もし誰かが一人になれば、もしかすると倒れてしまうかもしれません。今日の説教はクリスチャン弁証家のラビ・ザカリアスのことに触れることから始めましたが、彼は明らかに自分の霊的状态を説明すべき相手を持っていませんでした。彼は隠された罪を持っており、それが何年もかけてより一層彼の欲望に思うままにさせてしまいました。彼についてのインタビューの [youtube](#) をいくつか見たとお話しましたが、その中でもインパクトが強かったのは、別のクリスチャン弁証家であり、高い水準で誠実さを維持してきたジョシュ・マクドウェル師のインタビューでした。40 年前、私がまだ UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) の学生だった時、マクドウェル師の演説を聞いたことがあります。また彼の本も私をキリストへと導いてくれたのです。

Youtube のインタビューの最後でマクドウェル師は「ミニストリーの指導者たちが説明責任の 1 つでもきちんと実行していくために沿って行くべき最良の方法は何だと思えますか」と質問されました。マクドウェル師のこの回答は最高でした。「自分がどのような人であったとしても、自分に対して他の人が自由に面と向かって物申せるようにすること。ただ、『もし何か私に対して言うべきことがあれば、私の生活でも、行動でも、態度でも、なんでも疑問に思うことがあれば(私に聞いてくれ)。それで、もしもそれに対する私の反応が消極的であれば、それを突き付けて私に向き合ってくれ』と言うのです。他の人が自分に対して自由に立ち向かって意見できるようにする、それが一番大きなことですね。」

私は資格のある聖職者ではありません。専門家ではありませんから一般人の立場ではありますが、ここ 3 年間日曜に説教をするように招かれ説教台から説教をしています。この場所からお話し、神の御言葉について述べることは、うやうやしくも真剣にとらえるべき、重い責任があります。ヤコブ 3 章 1 節にはこうあります。

ヤコブ 3:1 「3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。」

私もマクドウェル師の推奨することを実践すべく、皆さんが私を吟味してくださり、私が説明責任を持つようにしてくださるようお願いしたいと思います。何か私の内に不適当なことがあれば、私に指摘してください。私の妻にも同様のことを言ったことがあります。私たちのコートシップ(聖書的な交際期間)中にも言いましたし、結婚してから数回、妻の「知恵に満ちた賢い言葉」が聞きたいのから、私に対して何か言う必要がある時は遠慮してはいけないよと伝えました。ですから、教会の兄弟姉妹の皆さんにも、私に説明責任を持たせてくださり、私に不適切なことや努力して直さなければならぬことがあったとしたら指摘してほしいのです。

私の本棚には、パトリック・モーリー著の「鏡に映る男（仮題）」という本があります。この本はクリスチャンの男性が自分の人生を吟味するために書かれた本です。この本の最終章には、説明責任について書いてあります。このテーマについてのこの著者の考えもいくつかご紹介しましょう。

モーリー氏は説明責任のことを「キリスト教の失われた環」と呼んでいます。多くの男性は自分自身のボスになりたいと思ってしまいます。ですから、彼らは他の人にいつでも説明できるようにするなんてことは避けたいものです。ですが、私たちは互いを必要としています。先ほど出てきた箴言 27 章 17 節にもありました。「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」と。私たちは皆自分の人生の中に盲点がありますから、他のクリスチャンの視点を取り入れることは私たちにとって有益なのです。私たちがどうであるかを指摘し、質問を投げかけてくれて、課題を突き付けてくれるような「説明責任パートナー」を持つことで、この聖書箇所<sup>わ</sup>の描写のように、私たちも「とがれる」ことを実践しなければなりません。

モーリー氏は説明責任の目的、ゴールは、毎日私たちが「すべてのことにおいてよりいっそうキリストのようになるため」であると教えています。それは、つまり弟子になることです。モーリー氏はまた説明責任の定義を「私たちの人生における重要な分野ごとに定期的に適任の人たちに対して説明できるようにしておくこと」であるとしています。

「私たちの人生における重要な分野ごとに.....定期的に.....適任の人たちに対して.....説明できるようにしておくこと.....」

・「定期的に.....」

モーリー氏は彼の経験から週に一回は説明責任パートナーと会う時間を取るものがベストだと言っています。

・「説明できるようにしておくこと.....」

ビジネスに携わる人なら、誰かに対して説明できる状態にしておく必要があるものでしょう。会社は目標を設定して、社員がその目標を達成すること、そしてどのように時間と資源を用いて来たかを上司に説明することを期待します。ビジネスでもそうであるように、クリスチャンも目標を設定し、キリストのようになるという目的を達成すべく一定の基準に沿って生きるべきです。誰かに説明できるようにしておくことは、確かにその目標を達成しようとし続けるために有益です。

・「適任の人たちに対して.....」

説明責任パートナーとして、信頼出来て相性の良い人を選ばなくてはなりません。そして何よりも、その人はキリストを愛し、あなたの成功を見るために努めてくれる人でなければなりません。そしてその人はあなたが尊敬できる人で、かつその人の判断を信頼できる人であるべきなのです。

・「私たちの人生における重要な分野ごとに.....」

これには、あなたの妻、子ども、そして神との関係を含みます。私たちは時間とお金を使うことにおいて賢い者であるべきです。そして自分の道徳的、倫理的行動に注意しなければならないのです。

最重要ポイントとして、モーリー氏は私たちが説明責任パートナーに「難しい質問を投げかける権利」を与えなければならないと言っています。人生の重要分野における出来に関して私たちを評価する、また評価することを助けてくれる人が居ない限り、私たちは秘密の隠れる生活へと自分たちを導いてしまいます。キリストの命令に対して説明する責任を持つことができない状態の生活です。

自分の思いに誤りを生じさせないようにしましょう：一人でクリスチャン生活を歩める人はいません。もしもそうすれば自分の方針に任せて、自分は絶対間違えないと自分を納得させてしまうことでしょう。「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」

(エレミヤ 17:9)

誰かに対して説明責任を持つということは、他の誰かに先手を取ってもらい権利と責任を与えること、説明できるようにしておくことは自分たちが聞かれた質問に答えることです。あなたの人生では、誰か質問を投げかけてくれますか？

モーリー氏はこの章を、説明責任の主な目的に再度触れることで終えています。「すべてのことにおいて、日々よりいっそうキリストのようになること」

日々、より一層キリストのようになること。それを思うとエペソ 4 章 22-24 章が頭に浮かびます。

エペソ 4:22-24 「4:22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、 4:23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、 4:24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」

古い服を脱ぎ捨てるかのような、古い人を脱ぎ捨てるというこの描写が私は大好きです。心の霊において新しくされ.....そして神にかたどり作り出された新しい人を身に着けるのです。

では最後にガラテヤの手紙 2 章 20 節で終えたいと思います。

ガラテヤ 2:20 「2:20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

ここにクリスチャンとして生きるための必須要素があります。キリストは十字架につけられました、そして私たちも、自分たちの人生を手放し、キリストのためにお捧げするのです。私たちの人生は私たちのものではなく、キリストのものであると認識し、そしてキリストが私たちのうちに生きておられ、私たちはこの命を信仰によって、キリストが私たちのためにご自身の命をささげられたことに感謝をもってキリストのために生きるのです。

キリストのようになれるように、より一層、励みましょう。